

# 平成 25 年度 第 5 回小学校ゼミナール記録

2013 年 7 月 11 日 (木)

於：広島大学附属小学校

司会：大滝孝治（広島大学院生）

参加者：大橋（発表者）他 15 人

## 1. 検討論文

The relationship between diagrammatic argumentation and narrative argumentation in the context of the development of mathematical thinking in the early years (Götz Krummheuer, 2013; 1 回目) 第 1 節～第 2 節

## 2. 発表内容

初回の発表につき、論文の採択理由と概要及び、構造が述べられた後に、論文の内容として、「1 導入」及び「2 理論的基盤」が発表された。本稿は、数学的思考の発達における相互作用のニッチ [Interactional Niche in the Development of Mathematical Thinking; NMT] を理論的枠組とし、選出された学校場面と照らし合わせ、子どもと教師の間の「ダイアグラマティック・アーギュメンテーション」と「ナラティブ・アーギュメンテーション」の再構成を行なっている。著者は、C. M. Super と S. Harkness の発達のニッチ (図 1) という理論的枠組みを参考に、NMT という枠組みを構築した。その中の要素は「協同」、「教授と教育」及び「内容」であるという。また、「相互作用の NMT」には「割り当て [allocation]」と「状況 [situation]」という 2 つの側面があるという。

## 3. 議論内容 (一部を要約して抜粋)

- ・ ダイアグラマティック・アーギュメンテーションとナラティブ・アーギュメンテーションは個人のある発言の対話を見ているのか、教室全体の対話を見ているのか。

生徒と教師のやり取りについて、個人のある発言に対する教師とのやり取りなのか、教室全体とのやり取りなのか疑問となった。明確な解答は得られていないが、次回以降の内容において、具体例とともに述べられるだろう。

- ・ NMT は、発達のニッチの図式化を参考にすると、どのような図式が望ましいだろうか。

発達のニッチは 2 次元であるが、NMT は 3 次元のドーナツのような形 (図 2) という解釈でいいのではないかという意見が出た。

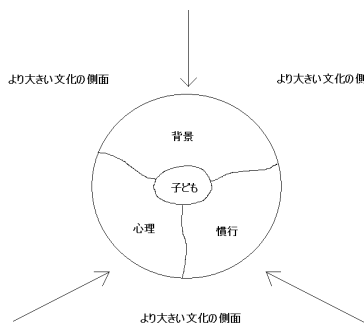


図 1. 発達的ニッチの図式化

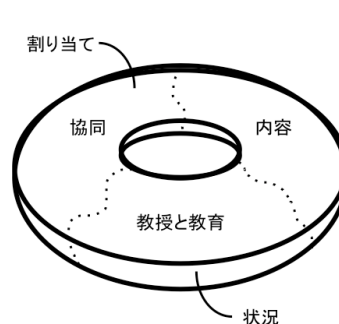


図 2. NMT の図式

(文責：辻本 亜希)